

認知症サポーター養成講座



加古川南高校

2月7日と14日、加古川南高校2年生の社会福祉基礎コースの生徒12名が受講されました。まだ寒さの残る1限目に2週にわたり約100分間、真剣に学んでいただきました。特に感心したことは、宿題に対して全員が真摯に取り組まれ、その結果として、良い意見がたくさん出たことです。自分の時間にじっくりと考えてくれたと思うと、キャラバンメイトの全員が感激し、良い気持ちになって講座を終えることができました。



氷丘中学校

2月16日、氷丘中学校の2年生と先生方約280名を対象とした養成講座に、お手伝いとして参加しました。キャラバンメイトからの講話も熱心に聞き、個人ワークは真剣に、グループワークは仲間と楽しそうに取り組んでいたことが印象的でした。中学生の時から認知症について学ぶ機会をもっといただけたことは、認知症の方を支援する地域づくりに向けて、大きな力に結びつくように感じました。



加古川公民館（公募型）

2月27日、加古川市の広報で応募された17名の方が、新たにサポーターとなりました。30歳代から70歳代の男女の方がお互いに見知らぬ人同士で受講され、グループに分かれての意見交換は和気あいあいと行われていました。地域の中で何かできることは？との問いに、「**まずは自らがこういった講座を受ける事**」とお答えくださった方がおられ、啓発していくことの意義を感じました。みなさまお疲れ様でした。



2月は認知症サポーター養成講座の開催要請が重なりましたが、ボランティアのキャラバンメイトの皆様にはお忙しい中、頻回にわたり出務いただきましたこと、大変心強く思い感謝いたしております。

介護者のつとめ

1月の介護者のつとめは、想RAKUの方をお招きし、**遺品整理**について教えていただきました。遺品整理は故人が大変な思いをして手に入れた物や思い入れのある物など、整理や処分に迷われることがあり、なかなか踏み切れないとお聞きしております。今回、住職をしている講師が日頃の疑問点にわかりやすいように遺品整理について教えていただきました。また、エンディングノートを活用することによって自身の生前整理がスムーズになることもよくわかり、生前整理、遺品整理について深く学べる機会になったのではないかと思います。



オレンジサロン（認知症予防教室）



2月21日、神戸薬科大学 波多江准教授より「**学んで健康！楽しく出来る減塩生活**」とのタイトルで講話をいただきました。「**減塩はなぜ認知症予防につながるのか？**」「**実は塩分の摂りすぎの原因は、全体の食事量の摂りすぎ**」など“目からうろこ！”との声があがっていました。またかかりつけ薬剤師についての話もあり、日頃病院とは縁がなくても、薬の悩みがあればいつでも活用できるとの知っ得情報もゲットできたようです。



オレンジサロンはお陰様で毎回大盛況となり、これも参加者のほか、各関係機関の皆さまのご協力の賜物と感じています。**今年度より原則第2木曜日の13:30からに変更になります**が、これからも地域の皆様に役立つ情報をご提供できる架け橋になっていきたいと思っております。

認知症地域支援推進員 出前講座

2月15日、でいさーびす春風に於いて、株式会社ウィズの職員様18名に認知症地域支援推進員出前講座を開催しました。加古川市は6つの地域包括支援センターに1名ずつ認知症地域支援推進員を配置しており、認知症の方やそのご家族を支援し、医療機関や介護サービスおよび地域をつなぐコーディネーターとしての役割を担っています。今回の出前講座では、加古川市の認知症施策とともに、地域包括支援センターでの認知症に関する取り組みについてお伝えさせていただきました。介護保険制度のことはよくご存知でしたが、その他の認知症の方を支援する事業などについては「**様々な取り組みがあることを初めて知った**」「**活用できることがたくさんあり、心強く感じた**」といったご意見を多くいただきました。認知症地域支援推進員の役割を知っていただくことで、誰でも住み慣れた地域で安心して生活できるような地域づくりに向けたネットワークの構築につながったのではないかと思います。今後も在宅サービス事業所に向けて、この出前講座を開催していきたいと考えています。



6包括 合同研修



今年度、脳卒中をテーマにしてシリーズで開催してきました合同研修会ですが、今回は、「**脳卒中発症後の生活における自立支援に向けたケアプランとは**」のタイトルで、兵庫県対人援助研究所の稲松真人氏より約120名のケアマネジャーさんへ講話していただきました。脳卒中を負われたご利用者様に関わる上で大事なことは、医師にご意見をいただく事、ご相談させていただく事と教わりました。そして、必要な社会資源にお繋ぎし、その方が生き生きと自分らしく生活できるようにご支援させていただく事が重要だと感じました。

加古川町内 事例検討会

1月24日、加古川公民館にて、「**同居家族がいる高齢者への支援**」について、事例提供者と検討者の質疑応答形式で、より良い支援のための検討が行われました。一つの事例に16名のケアマネジャーから次々に質問があがり、共感あり、具体策の提案ありと、予定していた1時間半はすぐに過ぎていきました。後日、事例提供者のケアマネジャーより「**みなさんのアドバイスをもとに、訪問看護を取り入れてみることにしました**」とご連絡をいただき、主催者側としては嬉しかったことをご報告いたします。



フードドライブ



フードドライブという言葉、耳にされたことはありますか？ ご家庭で余っている食品を持ち寄り、必要とされている福祉団体や施設などにお渡しする、**もったいないをありがとうにかえる**ことができる取り組みです。食品ロス（食品がまだ食べられるのに、捨てられてしまうこと）の削減という目的があり、『**加古川市民27万人の力で20%ごみ減量を!**』というスローガンにもつながる活動となります。生活協同組合コープこうべが主催され、2月21日～23日の3日間

で余剰食品を市内のコープ2店舗と、加古川駅近くのコープのつどい場に**1307個、570.5kg**もの食品が集まり、必要とされている団体などにお渡ししました。包括もこの活動に、高齢者支援という目的をもって参加させていただき、次回以降の活動にもご協力できることがあればと考えています。

